

イリノイ大学派遣留学月例報告書

今月は、本当に寒さが厳しい月になりました。最近では朝に-20度を下回る日が続いております。ところで、先月報告しました冬眠しないスクワローですが、今月もまだ冬眠していないようです。今朝、窓の外を眺めていると、寮の壁をよじ登っていくスクワローがいました。ひよっとすると、イリノイのスクワローは冬眠しないのではないかとさえ思えてきます。一体どうなっているのでしょうか？

さて、今月の報告内容ですが、春学期が20日から始まりそれに合わせて、履修する科目も決定しましたので、その科目の内容および履修目的をまとめ報告したいと思います。

<内容>

1. spring semester 2004 履修科目一覧
2. 履修科目の説明と履修理由
3. まとめ

1. spring semester 2004 履修科目一覧

私が今期履修する科目は下記一覧の通りです。表記は Course name and number: Class name and Credit number の順で記します。また、それぞれの Course Name を SPSH: Speech and Hearing Science, THEAT: Theater, ESL: English as a Second Language として表記します。また Course number は 100~299 は学部1・2年生レベル、300以降は3・4年または大学院レベルの講義を指します。単位数は hours で表記し、一週間あたりの講義時間を指します。

Fall semester 2003 履修科目一覧

SPSHS 376: SPEECH SCIENCE II.	4 hours
SPSHS 102: Introduction to Human Communication: Systems, Processes, and Disorders	3 hours
ESL 110/410: English Pronunciation for Academic Purposes.	3 hours
ESL 114: Introduction to Academic Writing for Undergraduate Students	3 hours
単位数：計 13hours	

2. 履修科目の説明と履修理由

履修科目についての説明と履修理由について報告します。

SPSHS 376: SPEECH SCIENCE II.

この科目は、健常者の発話と聴覚の解剖学的、生理学的特性の基礎を学習することを目的としています。次にそれぞれの科目についての説明と履修理由について述べたいと思います。

SPSHS 375: SPEECH SCIENCE 2.

4 hours

この科目は、発話のメカニズムについての生理学、脳科学、音響学などから学ぶものです。テキストは Borden, G. J., Harrie, K. S., & Raphael, L. J. (2003). Speech science primer (4th ed). Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins. を使用します。レクチャーが週に3時間、Lab Workが週に1時間あります。

これまでの報告の繰り返しになりますが、私のこの留学の目的はこの Speech Science の科目を履修し、今後の研究に役立てることです。ですから、今期も先月に引き続きこの科目を履修しています。先学期は生理学や解剖学から発話のメカニズムについて学びましたが、今期は主に脳科学、

音響学の立場から発話のメカニズムを学び、また研究のためのアプローチの仕方について勉強するようです。

先学期はこの科目は聴講のみという形で参加しましたが、今期は単位取得を目指して頑張ります。

SPSHS 102: Introduction to Human Communication: Systems, Processes, and Disorders

この科目は、コミュニケーションがいかになして成り立っているのかということや、どのような学問が人間のコミュニケーションを研究しているか、またそれはどのようなものかななどを、幅広く勉強する科目です。テキストは Owens, R. E., & Hass, A. Introduction to Communication Disorders: A Life Span Perspective. Boston: Pearson Education, Inc, 2003. を使用します。レクチャーが週に2時間、インターネットによる特別な講義が週一回あります。

この科目は履修する予定ではなかったのですが、演劇の講義が演劇専攻だけしか取れない科目が多く、時間を調整できなかつたことから、この科目を履修することにしました。一応大学では個人的にこの科目の範囲は勉強したのですが、大学の講義という形でこういった科目を履修することで、新しい発見があるだろうと期待しています。演劇の科目を履修できないのは残念ですが、音声の勉強をすることが留学の目的でしたので、これはこれで満足しています。せっかくですからコミュニケーションのメカニズムについても一度基本から復習したいと思います。

ESL 110/410: English Pronunciation for Academic Purposes.

この科目は英語の発音と聞き取りの能力を訓練するものです。英語には英語特有の発音のためのルールがあるのですが、そのことを学ぶと同時に、テープへの録音などを通じてネイティブにとって聞き取りやすい発音ができるようになることを目指します。また、インターネットを利用した音声教材を利用しながら、聞き取りの練習も同時に行います。

私はよく経験することなのですが、私の英語のアクセントに位置がはっきりしていなかった場合や、日本人にとってなじみの薄い母音が入っている単語を発音した場合、ネイティブの友人に私の伝えたいことを理解してもらえないことがよくあります。今回のこの科目を履修した理由はそのようなことを減らし、よりスムーズなコミュニケーションを取る能力を養いたいと思ったからです。また、英語特有の発音のためのルールを覚えることで、音声についての理解が深まるかもしれないと考えたこともこの科目を履修した理由です。

ESL 114: Introduction to Academic Writing for Undergraduate Students

この科目は先学期履修した ESL 113 の続きで、英語のライティング能力を高めるためのクラスです。先学期はエッセイを書く場合、与えられたテーマや自分で考えたテーマに対してエッセイを書いていましたが、今期は読書感想文のようなことをたくさん行うようです。

先学期、手を抜いて満足のいく課題が提出できなかったのですが、今期はよい課題を提出できるように努力したいです。

3. まとめ

今学期は SPSHS のクラスを二つに ESL のクラスを二つ履修することになりました。演劇の科目を取れないのは残念ですが、SPSHS および ESL のクラスをしっかりと履修し、音声についての専門知識、英語における理解力と表現力を伸ばしたいと思います。演劇のことについては、個人的に劇場に通いながら勉強したいと思います。

以上を今月の月例報告とさせていただきます。